

2000年8月23日

フジテレビジョン
「笑う犬の冒険」プロデューサー
吉田 正樹 様



日本アルコール問題連絡協議会
<事務局>
東京都中央区日本橋浜町3-19-3 ソグノ21ビル
TEL: 03-3249-2551
<加盟団体>
アルコール問題全国市民協会
アディクション問題を考える会
日本キリスト教婦人矯風会
日本アルコール・薬物医学会
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会
飲酒運転に反対する市民の会
イッキ飲み防止連絡協議会
全日本断酒連盟
救世軍日本本営
国際グッドテンプレアーズ
日本禁酒禁煙協会
日本禁酒同盟
キュー・ビー・イー保険会社

「笑う犬の冒険」ウイスキーイッキ飲みに関する申し入れ

私どもは、お酒のもたらす害についてそれぞれの立場から取り組む市民団体の集まりです。お酒のイッキ飲みを防止する活動は、私どもの大きなテーマのひとつです。

2000年8月20日に放映された貴番組ビデオを入手し、驚きあきれております。コント「小林はじめの店」では、ぼったくりバーのマスターと客がゲームをし、負けた客が計グラス6杯ものウイスキー原液をイッキに飲まされる、というシーンが放映されていました。

ウイスキーをあれだけの量、イッキに飲めば、泥酔状態、ひどければ昏睡状態に陥ってもおかしくありません。特にお酒に弱い体質の人（日本人の4割）であれば、生命の危険を招きかねない行為です。実際に、1989年には大学1年生がグラス6、7杯のウイスキーをイッキ飲みさせられて死亡。他にも複数の学生がウイスキーを大量にイッキ飲みさせられて亡くなっています。

毎年、数名の若い命が、「罰ゲーム」「その場のノリ」「伝統」という名を借りたイッキ飲ませで失われています。そして昨年も、熊本大学医学部漕艇部（ボート部）1年生が、多量の焼酎をイッキに飲まされ死亡しました。「バトル」と呼

ばれる焼酎の1対1早飲み対決で、勝つまで飲まされるというゲームをやらされての死です。ご両親は部関係者を相手取って刑事告訴、民事訴訟を起こして民事裁判が進行しています。このニュースは、貴局「ニュース JAPAN」でも取り上げられました。

ところが貴番組の「罰ゲーム→イッキ飲み」というシーンは、まさにこの事件を彷彿させました。このような状況下、危険なイッキ飲みシーンを放映することは、この蛮行を正当化・奨励するものであり、およそ視聴者に受け入れられるものではありません。二度と貴番組内および貴局番組内で、イッキ飲みシーン（自分からやる場合、他人から強要される場合のいずれも）を放映されないよう、厳守していただきたく思います。

テレビという大きな影響力をもつ媒体が、いったん有害な情報を流した際に社会に与えるはかり知れない悪影響について、自覚をあらたにしてください。今後の番組づくりに上記の点、くれぐれも留意されたく、強く申し入れます。

以上